

愛別町子どもの読書活動推進計画

～夢ひろがり 活力あふれる 豊かな心の育成～



令和7年3月

愛別町教育委員会

目 次

1. はじめに	1
2. 基本理念	1
3. 子どもの読書活動の現状と課題	
(1) 家庭における読み聞かせについて	2
(2) 読書に関する興味・関心・読書量について	3
4. 家庭・学校・地域における子どもの読書活動の推進	
(1) 家庭における読書活動の推進	4
(2) 学校における読書活動の推進	5
(3) 地域における読書活動の推進	6
5. 読書活動を推進するための環境整備	
(1) 公民館図書室等の充実・整備	7
(2) 読書活動推進体制の整備	7

1. はじめに

現在の社会環境では、テレビ・携帯電話・インターネットなどの発達により、いつでも誰もが簡単に必要な情報を得ることができるようになり、生活スタイルや価値観が多様化しています。利便性が増した一方で、情報化の進展や様々なメディアの発達・普及などを背景として、子どもの読書離れが指摘されています。

このような状況から、国においては、すべての子どもがあらゆる機会と場所において自主的に読書活動が行えるよう、環境の整備を積極的に推進することを基本理念とした「子どもの読書活動の推進にかかる法律」を平成13年12月に策定しました。また、GIGAスクール構想による児童生徒の1人1台端末のICT環境を活用した学校図書館の積極的な活用や、公立図書館の電子書籍貸出サービスとの連携を推進しています。北海道においても、「北海道子どもの読書活動推進計画」（第一次基本計画）が平成15年11月に策定され、その後、成果と課題の整理及び主要施策の数値目標等の改定が行われ、現在「第五次計画（令和5年度～令和9年度）」を展開しています。このような背景から、愛別町においても、平成22年に読書推進計画「きのこの里読書プラン」が策定されました。

このたび、社会の変化や国・北海道の動向を踏まえ、家庭・学校・地域が連携・協力し、子どもたちが読書活動を行うことで、夢がひろがり、活力あふれ、豊かな心の育成につながるよう、「愛別町子どもの読書活動推進計画」を策定します。

2. 基本理念

**「愛別町に住むすべての子どもたちが、
いつでも自主的に読書活動を行える環境の整備」**

読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かにすることができ、子どもたちが成長していく上で、本との関わりを避けて通ることはできません。

特に、これからの時代を担う子どもたちが健やかに成長するためには、考える力を培い、豊かな感情を養い、幅広い知識を習得する必要があります。そのためには、幼少期からの読書週間を身に着けることが大変重要です。

本計画では、愛別町に住むすべての子どもたちが、いつでも自主的に読書活動を行うことができるよう、環境の整備を図り、読書活動を積極的に推進します。

3. 子どもの読書活動の現状と課題

愛別町の子どもの読書活動の現状は、公民館図書室と自動車文庫「a i - a i」を中心とする図書の貸出、ブックスタートによる絵本の配布、ボランティアによる読み聞かせなどにより実施されていますが、子ども1人当たりの図書貸出量はあまり多くなく、特に公民館図書室の利用は、一部の利用者に限られています。

また、幼児センター（園児・保護者）・小中学生を対象とした読書アンケートから次のような現状が見られます。

（1）家庭における読み聞かせについて

保護者へのアンケートから、家庭での読み聞かせは広く行われており、ほぼ毎日（36%）行う保護者も見られます。また、読み聞かせにより、親子関係や子どもの成長に良い影響があると認識されています。

●保護者を対象にしたアンケート結果（令和7年3月実施）

【質問】子どもに読み聞かせをしていますか



【質問】読み聞かせはどのくらいしていますか



【質問】読み聞かせをしてよいと思うこと（複数回答）

- ・子どもが本に興味を持つ。
- ・親子の絆が深まる。
- ・想像力や読解力がつく。
- ・子どもとゆっくり向き合う時間ができる。
- ・穏やかな気持ちになれる。

など

(2) 読書に対する興味・関心・読書量について

幼児センターの園児を対象としたアンケートでは、「本を読むのが好き」「読書をよくする」と答えた園児がともに8割以上と多く、ブックスタート事業やボランティアによる読み聞かせなどの効果が現れています。

小中学生を対象としたアンケートでは、「本を読むのが好き」と答えた生徒が6割程度いる一方で、学年が上がっていくにつれて、読書量が減少しています。また、「1日に10分以上読書をする」と答えた生徒が5割程度となっており、「北海道子どもの読書推進計画」の目標値(91%)に遠く及んでいないのが現状です。

このような現状から、家庭・学校・地域が一体となった読書活動の推進と推進するための環境整備が必要です。

●幼児センター・小学生・中学生を対象にしたアンケート結果 (令和7年3月実施)

	読書が好きですか	家庭でも読書をしますか (※)		1日どのくらい読書をしますか (※)
		よく読む・ときどき読む	月に3冊以上読む	10分以上
幼児センター	22人(81%)	24人(89%)		
小学校低学年	19人(50%)	33人(86%)		
小学校高学年	31人(65%)		22人(47%)	27人(57%)
中学生	20人(54%)		10人(27%)	13人(35%)
合計	92人(61%)	89人(60%)		40人(47%)

※ いずれの質問も学校での読書活動は含めないものとする。

4. 家庭・学校・地域における子どもの読書活動の推進

(1) 家庭における読書活動の推進

日常生活を通して子どもが読書習慣を形成していく上で、家庭は重要な役割を担っています。

特に、乳幼児期において子どもに絵本を読み聞かせることは、子どもの豊かな感情を養います。また、乳幼児期に読み聞かせをしてもらい育った子どもは、小学生以降の読書量が増えるという報告もあります。

乳幼児期からの「言葉の学び」により、小中学生での表現力・理解力・感性・想像力の向上、成人期における教養力の充実、高齢期における認知症の予防など、読書活動による効果が大きく期待できることから、生活の一部としての読書活動に重点を置き、ゆとりのある読書活動を推進します。

また、北海道では、子どもとのコミュニケーションを深める手段として「家読（うちどく）」を推進しています。子どもとの本を読む時間を作り、読書を通じて家族で感じたことなどを語り合うことで、家族間のコミュニケーションを深めることにつながります。

【具体的な取り組み】

- ブックスタート事業（※1）
- 生涯学習だよりによるおすすめ本の紹介
- 幼児センターにおける読書活動の推進
 - ・絵本貸出日（月1回）による家読の推進活動
 - ・保護者会などでの読み聞かせ講座などの実施
 - ・未就園児を対象とした子育て支援活動の中での読み聞かせなどの実施



【ブックスタート】

※1 ブックスタート事業：10～11カ月の乳児とその親を対象に、乳幼児健診の際に、絵本2冊と読み聞かせアドバイス集などをセットにした「ブックスタートパック」を渡す事業。

(2) 学校における読書活動の推進

子どもの成長に合わせた読書の指導は、読書習慣を身につけるために重要であり、幼少期から小学生期における良質な本との出会いは、興味・関心を広げ、中学生・高校生期における読書は、自我の確立に大きな影響を与えます。

小中学校においても、読書機会を広げるために、朝読書や学校図書館を利用した調べ学習などを実施しています。学校と公民館図書室が連携し、よりよい読書活動ができるよう推進します。

【具体的な取り組み】

- 朝読書の推進・学校図書館を利用した調べ学習の実施
- 学校図書司書の配置
 - ・学校図書館の環境整備による読書環境作り
(本の選書・テーマ展示など)
- 学校と公民館図書室の連携
 - ・学校ブックフェスティバル ※2 や学校サポートボックス ※3 の実施
 - ・愛LOVEぶっくんライターコンクール ※4 の実施
- 学校図書職員・学校図書司書の各種研修会への参加



【学校ブックフェスティバル】

-
- ※2 学校ブックフェスティバル：北海道立図書館の市町村支援事業を活用し、一括借り受けした児童書を体育館いっぱい配置し、児童への貸出を実施するほか、しかけ絵本やおはなしめいろを展示。
 - ※3 サポートボックス：北海道立図書館の市町村支援事業を活用し、学校の朝読書や休みの時間の読書、調べ学習などで活用できる本をテーマ別に一括で借り受け。
 - ※4 愛LOVEぶっくんライターコンクール：冬休み期間を活用し、愛別小学校及び比布中央学校の児童を対象に、読書感想文コンクールを実施。審査会にて優秀作品を選考し、該当作品を収めた入選作品集を発行。

(3) 地域における読書活動の推進

誰もがいつでも読書活動ができるためには、家庭・学校での読書活動だけでは、長期的な読書活動の定着を望むことができません。そのためにも、地域全体での読書活動の意義や重要性を理解することが大切です。読書活動を定着させるためにも、公民館事業として、読書強化月間に合わせた読書事業を引き続き実施します。

一方で、ブックスタート事業での読み聞かせを行っていただいている「絵本読み聞かせの会」との連携及びサポートと、新たなボランティアの発掘をしていかなければなりません。

上記ボランティア団体との連携並びに、公民館・教育委員会事業として、本や読書活動にふれあう時間を提供できるよう推進します。

【具体的な取り組み】

- 読み聞かせ講座などの読書活動の推進
- 公民館図書室における家庭で不要になった本の受け入れ
- 古本市（※5）の開催
- 絵本まつり（※6）の開催（R7年度より実施）
- ブッククロール事業（※7）



【読み聞かせ会】



【古本市】

-
- ※5 古本市：公民館図書室で除籍となった本を無料で配布。
 - ※6 絵本まつり：絵本読み聞かせの会と連携し、夏・冬休み期間に読み聞かせ会を実施。読み聞かせ会終了後は、図書室の本を活用したモノづくり体験を実施。
 - ※7 ブッククロール事業：公民館図書室で借りた本を返却する際に、1冊につきシールを1枚付与し、50枚貯まるとガチャガチャをまわすことができ、景品が当たる事業。

5. 読書活動を推進するための環境整備

(1) 公民館図書室等の充実・整備

公民館図書室と自動車文庫「a i - a i」での図書の貸出事業(※8)では、本との出会い、読書を楽しむことができる場を提供できるよう、蔵書の充実を図り、優良図書の紹介や本を探しやすく快適に読書ができる明るい図書室整備ができるよう推進します。

【具体的な取り組み】

- 公民館図書室・自動車文庫「a i - a i」の蔵書の充実
- アンケートやリクエストによるニーズの把握
- レファレンスサービス(※9)の充実
- 学校図書司書との連携
 - ・ 幼児・子ども向けコーナースペースの環境整備
 - ・ 学校図書館との連携を図った効率的な選書

(2) 読書活動推進体制の整備

多種多様なジャンルの本があり、子どもたち全ての要求に対する本を公民館図書室に蔵書するには限界があります。この多種多様な要求にこたえるためには、北海道立図書館が行う市町村活動支援事業の活用や、近隣市町村図書館との相互貸借制度などを利用し、少しでも多くの利用をしていただけるよう推進します。

【具体的な取り組み】

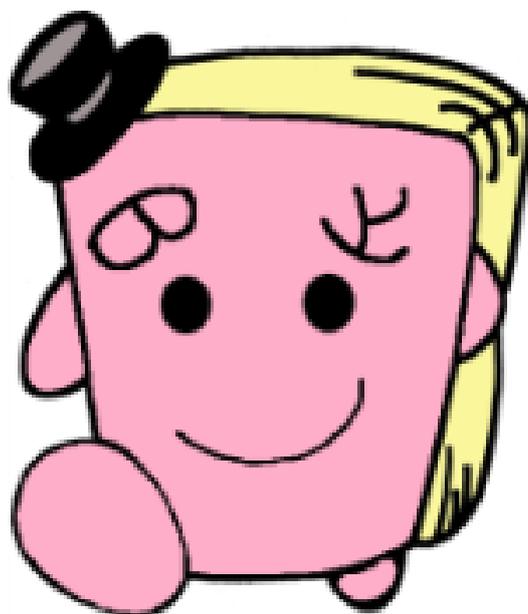
- 北海道立図書館や旭川市中央図書館などとの連携



【自動車文庫「a i - a i」】

※8 自動車文庫「a i - a i」での図書の貸出事業：毎月第1・3火曜日の中休み・昼休みに小学校へ自動車文庫「a i - a i」を巡回。

※9 レファレンスサービス：図書の所蔵の有無や貸出・返却などを電子で実施できるサービス。



愛別町公民館図書室イメージキャラクター「ほんちゃん」

愛別町子どもの読書活動推進計画

発行年月	令和7年3月
発行・編集	愛別町教育委員会・愛別町公民館図書室
住 所	〒078-1493 北海道上川郡愛別町字本町345番地1
電 話	01658-6-5115
F A X	01658-6-4187